

2月半ば、近所に住む70代半ばの女性が来院。ラジオ体操を頑張ってやったためか、両肩が動かすと痛くなり、カーブスで指導に従っているいろいろ運動したら、腰や股関節が痛くなったと言う。膝も痛く、正座はもちろん、中腰もできない。仰向けに寝てもらうのも簡単ではなかった。腰部の脊椎すべり症がある。肩の調子悪いと指に力が入らなかつたり、右中指がばね指になつたりすると言う。リウマチ検査では問題ない。時に動悸がある。心療内科で痛み止めや筋肉をやわらげる薬を貰っている。

学生時代はバレーボール選手であり、最近までフォークダンスをやっていたので、運動することが好きであり、夜間頻尿・便秘などの不調を何とかしたいと、体操等を頑張り過ぎ、更に墓穴を掘ったようである。

不調があると、運動嫌いの人は食事で何とかしようとし、運動好きの人は運動で何とかしようとする傾向がある。食事も運動もそして休むことも大事である。自分の最も足らぬところを改善するのが効果的であるが、この人の場合は自分ではどうにもならない。治療が必要である。

診ると、運動し過ぎ以前にからだの状態はかなりおかしいことが分かった。胸腹そして大腿まで広く邪気を感じる。仰向けに寝た左側横に座って、反対側である右手の脈をとろうと、腕を軽く持ち上げ引っ張ると、右肩の痛みを訴えた。脈を診ると、左は拍動がはっきりせず、右は3回拍って2回速く拍つ様な、かなり乱れた不整脈で、やや緊張している。胸の心臓付近を通る経脈が張っている。背中は全体に凝っているが、特に心臓の裏側辺りは特に凝っている。肩甲骨外側と膝の裏表が虚している(エネルギーの流れが悪い)。脊椎すべり症のある腰部も虚しており、板状に張っている。

手足、背中を鍼し、腰には線香灸(線香をかざす)を施した。患者はからだが軽くなったと喜んでいて、起き上がるのには苦労していた。

2日後、来院。初診時も今回も治療室の座敷に入るところでつまずいた。治療した日はよく眠れ、寝返りが楽だったと言う。胸腹に広がった邪気はなくなった。

週2回治療した。3回目からは入り口でつまづかなくなり、次第に動きもスムーズになってきてはいるが、肩先が痛い、左下肢に力が入らない等様々な症状を訴えた。

動悸や動悸前症状(口唇が青白くなる)が時に起こる状態も4月半ばまで続いた。他の症状も次第に改善し、階段が左右交互に足を運んでのぼれるようになり、立膝もできるようになった。不整脈はあるが、動悸がなくなってきて、状態が落ち着いてきた。

週1回の治療とし、重点を正座できることにおいて治療することにした。腰部の状態を改善すると膝から大腿部の状態が良くなる。腰部6ヶ所に灸7壮を据えた。その後に残った膝周辺の異常を直接、鍼をする。5月終り頃には踵にお尻がつくようになった。そうすると、患者は肩の痛みを訴えるようになった。最初の時のような痛みはないのだが、上肢を大きく回す時に周辺が痛むと言う。そこで、今度は肩先の痛みを中心に治療するようにした。痛みの局所を探して、そこに鍼をチョンと刺していく。その後、痛み局所の対側を通る経脈上の手首辺りに気が流れるように鍼を傾けて刺し、しばらく置く。毎回、この様な治療を全体的な治療の後に行った。

こうして患者は墓穴に脚を入れた状態から這い出し、趣味を楽しむ生活に戻って行った。

(2018年7月小暑)